

SSKO

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

Grow up!!

栃木ダルク

ニュースレター 第38号(2006, 5, 11)

回復と成長と役割

栃木ダルク

代表 栗坪千明

1997年7月7日、私は茨城ダルクの門を叩いた。と言っても自分から進んでというわけではなく、父から「覚せい剤をやめたいのなら、これから行くところで治療をしろ。それ以外は知らん。」と引導を渡され、病院から直接、父、おじ、おばに連れられてやってきたのである。行きの車中で考えたのは、施設と言うからには病院のようなものを想像していたのだが、着いてみると小さな一軒家で、しかも30人近くの「いい若い者」が上半身裸でゴロゴロしている。私は病院の安定剤が効いていて、なんだか状況が飲み込めないまま、名前、住所、入寮理由などを書き込む程度の入寮手続きをすませている間に、父親たちは帰っていった。あれから9年がたった。その間ダルクのおかげで普通に生きていたらできないようなすばらしい体験までさせてもらった。それは現在も続いている。

茨城ダルクは田んぼに囲まれた場所にあった。私の実家の幼いころの雰囲気のことなく似ていて、なんとも言えない安堵感があった。その安堵感は薬物使用やそれにまつわる今までの社会生活からの解放感も混じって、1週間もすると私は施設

生活になじんだ。温泉に行ったり、仲間とマラソンしたりということは、解毒の作用もさることながら、今までクスリのおかげで経験してこなかった何かを私に与えてくれた。

もっとも、良いことばかりではなかった。今までクスリの力を借りながら、なんとか社会の中で成功しようとあがき続けていた私にとって、日がな一日施設でゴロゴロしている生活は、とても苦痛だった。「一日も早く治って社会復帰を果たしたい。」と、焦っていた。その焦りからか、施設を出て行き、クスリを使って戻ってくる仲間を見ると「なんでやめるための施設に来ているのに使うんだ。」と腹が立って、仲間ともめごとを起こしたりした。今となって思えば、それはクスリの使用欲求だった。「毎日、俺はつらい思いをして止めているのに、なんてうらやましいんだ。」という気持ちが、屈折して怒りとなって現れる。そんな繰り返しだった。

（2回に渡り連載いたします。）

編集

栃木DARC

宇都宮OP

那須TC

〒320-0014

〒329-3225

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14

栃木県那須郡那須町豊原丙 3227-2

形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

ホームページアドレス <http://www.t-darc.com>

宇都宮での生活

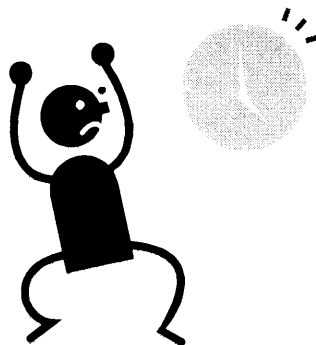
依存症のキシ



自分の生まれ育った街は宇都宮です。
宇都宮に施設が出来るという話を聞いたときから、自分も行きたいと思っていました。

刑務所、ダルクと宇都宮を離れて6年が過ぎていましたが自分の中では昔の友人関係だとか薬仲間が今でもとて近くにいますけど、それはそれ前々から生まれ育った宇都宮で社会復帰と考えていましたから自分が行けたらいいなといつも思っていました。昨年の終わりごろ、宇都宮に行けることが決まりました。うれしい気持ちと不安とが入り混じる中、1月11日から宇都宮での生活が始まりました。

実際、来てみた感想は街の様子が変わった。それだけでした。知らない道があったり知らない店があったり無くなっていたりで昔の記憶を頼りに自転車で走るのだけれど、自分が時代に取り残された様な寂しさを感じました。宇都宮での生活は、今まで経験した施設生活とは大違いで、とても自由を感じました。決まりごとは、ほとんどなく総て自己責任でミーティングに通うのも食事も全部自分でやる。最初の頃は新鮮で毎日が楽しくて楽しくて仕方ありませんでしたが最近自己責任の重さをひしひしと感じ始めてきます。宇都宮での生活も2ヶ月を過ぎた頃、アルバイトをしても良いといわれました。週3日程度、NAには出ること、そんな話だったと思います。実際仕事探しをするのだけれど、自分の希望する仕事はあまりなくて年齢、学





歴、時間帯が合わなかったりで思うように見つかりませんでした。前に別の施設の仲間が何度面接に行っても仕事が見つからないと話していたのを思い出し、自分も覚悟を決め何度もハロワークに通いました。

そんな気持ちで探していると施設の近くの仕事が見つかり面接を受けることになりました。履歴書を書くとき過去の空白を埋めるのにとっても苦勞しました。具合が悪くなり面接でもしどろもどろにな

っていました。運が良いのか悪いのか雇ってもらえることになり何か自分の中で拍子抜けした感覚で、こんな簡単に決まっちゃっていいの？という感じでした。

しかし働いてみると仕事はつらい久々だし立っているだけで疲れてしまいます。今日で2ヶ月ぐらい続いていますけど、朝、出勤する時、毎日行きたくねーなーと思いつつ行っています。自分の場合、施設でも樂を得選んでうまく立ち回って来たので、当たり前のことを当たり前と考えたりすることが出来ず仕事先でも苦勞することが多いです。でもいずれは通らなければ行けない道だと思いやりぬきたいと思っています。

こんな事、考えると自立など程遠い話だと感じますけど、何にもやらなければ、先は見えてこない、そんなことを社会でも施設でも思い知らされていますから今やれることをやり続けてみようとする日々です。

ずっと自由に憧れていたけど自由を手に入れるには苦勞と我慢が必要なのかと痛感しています。

早く自分の城を持ちたいなーと感じています。

ありがとうございました。



献金のお願い

5月6月と車検が5台もありタイヤも交換しなければいけない状況になってしまいました。

毎日、ミーティングやプログラムに行くために車で移動しており、かなりの走行距離を走ります。その為に故障する箇所が多く修理代等がかなりかかりお金が足りないのが実情です。

いつもお願いばかりで心苦しいのですが献金をお願いいたします。

編集後記

5月に入り、やっと那須でも暖かい日が続くようになりストーブを着ける回数も少なくなってきました。（朝晩はまだまだ寒いのですが）

先月、前々から欲しかったコンテナを支援者の方から頂いて利用者の荷物入れとして使わせていただいています。これで施設2階の部屋が使えるようになってたいへん助かるようになりました。ありがとうございます。

急な気温の変化で体調を崩す仲間が増えていますので健康管理に十分気をつけながら生活していくように心がけたいと思います。

さて話は変わりますが4月中旬からNHKの取材を受け5月に放送されることになりました。中高生向けの番組のようです。放送日は下記に記しておきます。

編集人 長谷川

放送日

5月16,23日 AM 11時30分～11時40分

5月17,24日 AM 11時50分～12時



グラウンドにてソフトボール

発行所

郵便番号一五七―〇〇七三
東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円

4月献金を下さった方々

川上悦男様、石井郁子様、アディソン家族会栃木様、小西憲様
神谷一二様、伏見忠義様

匿名5名様

4月献品を下された方々

白井健大様、福田澄夫様、水井清次様、笹原幸子様、高内由美様
バルロオ・マカホ様、栗坪輝明様、清龍寺弘範様

匿名2名様

発送作業簡略化の為、振込み用紙は全員に同封させていただいております。
ご理解の程よろしく願いいたします